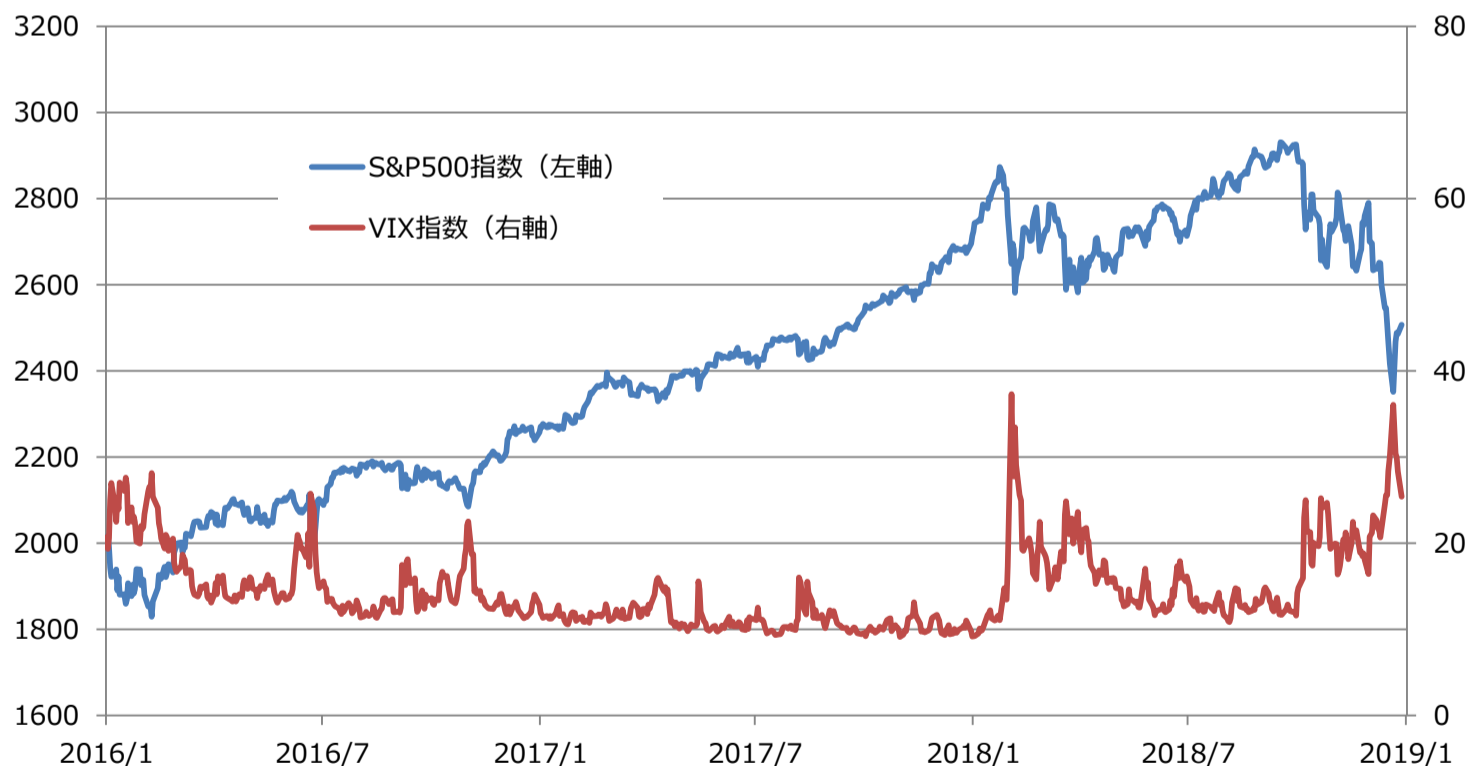


## 12月の株式市場の振り返りと今後の注目点について

12月の株式市場は値動きの荒い展開となり、一時、米国では12月としては1931年以来の下落率を記録しました。11月末にかけて堅調に推移した株式市場は12月4日にS&P500種株価指数（S&P500指数）が3%超の下落を記録するなど波乱のスタートとなりました。その後も株価は続落し、月初に2,800ドルに迫る水準にあったS&P500指数は中旬に2,600ドルを下回る水準まで下落し、24日には年初来最安値である2351.10ドルまで下落しました。米国株の予想変動率を示すVIX指数は、投資家の不安心理が高まった状態とされる20を上回り上昇傾向で推移し、一時35超まで上昇しました。多くの市場参加者が年末の「クリスマス・ラリー」を期待していた中、実際の株式相場は10月以降の下落局面が継続する展開となりました。月末にかけては、S&P500指数が26日に、1日の上昇率としては2009年以来の5%に迫る上昇を記録し27日も続伸しました。原油相場においても、世界的な供給過剰や原油需要の鈍化が見込まれる中、他のリスク資産相場の動きと同調して、原油価格は下落基調で推移しました。

今後の動きに関し、以下の点に注目が集まります。多くの市場参加者はこれまで同様FRB（米連邦準備制度理事会）及びパウエル議長の発言に焦点を当てています。来年のFRBによる利上げは2-3回と予想されていますが、先物価格においては0回を織り込んでいるとの見方もあります。ワシントンの動きにも注意が必要で、トランプ大統領のFRB及びパウエル議長に対する攻撃的な発言は株式を下落させる可能性があります。米中貿易摩擦の動向も今後の懸念材料です。今月の27日に来年の1月前半に次官級での米中貿易協議が行われると報じられました。経済データは市場心理、FRBの発言にに影響を与えるという点で重要であり、データが市場期待を上回り好調であった場合、利上げ回数が増える可能性があります。

S&P500指数とVIX指数の推移（過去3年）



### 【本資料のお取扱いについてのご留意事項】

- 本資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてSBI地方創生アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。また、本資料は、金融市場の上昇や下落を示唆するものではありません。
- 本資料は当社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、本資料に示された見解等は、本資料作成日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。